



ドリームキッズ実行委員会

広報実績（新聞記事）



平成22年度 日本大学芸術学部長指定研究 “科学を楽しむ心”を育てるサイエンスアート・コミュニケーション教育開発の研究

趣 旨

この研究は平成21年度の学部長指定研究を基に、継続研究として行なった『“科学をする心”“科学をアートとして楽しむ心”を育てるサイエンスアート・コミュニケーション教育開発の研究』（平成22年度学部長指定研究）に、具体的な成果を出すことを目的とした。多年に渡って行なってきた芸術総合講座「サイエンスコミュニケーション」の講義内容から広がった人脈や、ノウハウを活かして学生や教員と共に、よりハートフルなコミュニケーションを、芸術学部らしい形で実践することを目指した実験的教育研究である。芸術が科学の夢をふくらます可能性に挑戦することはユニークな試みであり、芸術と科学のつながりを社会に示すことがこの研究の趣旨である。

背 景

1901年正月、報知新聞に100年後の未来を予想した「二十世紀の予言」が掲載された。毎日新聞科学環境部記者の元村有希子氏が、紙面上でこれを紹介したことがきっかけとなり、2008年に第108回日本外科学会定期学術集会主催（毎日新聞社共催）で「21世紀の予言」アイデアコンクールが行われた。子どもから大人まで広く応募した同コンクールの受賞作品を、本学部の学生がアニメーション化し、授賞式で上映したところ大変な好評を得た。そこで、今回は日本大学芸術学部主催で、同様のコンクールを行うことを企画した。前コンクールを企画した長崎大学医学部の兼松隆之教授は、特に子どもたちの斬新な発想に感動したと述べておられたので、今回は全国の小学生を対象として、100年後の「科学」を想像してもらう形に決定した。

目 的

「科学の未来はこうだったらいいなあ」をテーマに、全国の小学生から作文・絵画によって表現されたアイデアを募集する。学部生がコンクールの運営に主体的に関わり、プロジェクト・マネジメントや広報活動などを実践的に学ぶ。受賞した小学生のアイデアを大学生がアニメーション化し、よりビジュアルに訴えかけられるような作品を制作する。このアニメーションを通して小学生のアイデアを広く発信し、科学者・科学コミュニティに刺激を与えることを最終目標とする。



芸術総合講座

「サイエンスコミュニケーション」
2010年度受講生有志

【作品管理チーム】

- 桑山 佳佑（写真学科）*
- 川田 和希（映画学科）**
- 斎藤 麻樹（美術学科）
- 兄玉 美聖（デザイン学科）
- 清水 いづみ（放送学科）
- 徳増 礼美（写真学科）
- 中泉 恵美子（音楽学科）
- 原澤 洋子（写真学科）

【入賞者対応チーム】

- 園田 力意（映画学科）*
- 山口 彩（放送学科）**
- 有馬 穂奈美（放送学科）
- 石田 浩美（写真学科）
- 高山 由菜（放送学科）
- 佐々木 奈央（デザイン学科）
- 曾根 啓太郎（音楽学科）
- 木崎 拓哉（放送学科）
- 並木 孝博（音楽学科）
- 堀江 春香（音楽学科）

【広報チーム】

- 斎藤 成美（デザイン学科）*
- 井上 延隆（デザイン学科）**
- 酒井 美沙樹（放送学科）
- 長澤 蘭（放送学科）
- 錦織 大祐（音楽学科）
- 濱田 桃子（放送学科）
- 細木 香代子（演劇学科）

【審査会準備チーム】

- 秋山 美帆（映画学科）*
- 野澤 将人（音楽学科）**
- 上田井 宏記（デザイン学科）
- 高田 まりこ（デザイン学科）
- 西田 果澄（音楽学科）
- 沼田 雄佑（音楽学科）
- 牧亜 砂美（音楽学科）
- 森 藍子（デザイン学科）

* リーダー ** サブ・リーダー



研究 成果 報告 書
平成22年度 日本大学芸術学部長指定研究 “科学を楽しむ心”を育てるサイエンスアート・ コミュニケーション教育開発の研究 「22世紀の予言 アイデアコンクール 科学の未来はこうだったらいいなあ」
編 集 木 村 政 司
発 行 日本大学芸術学部
発行人 木 村 政 司
発行日 平成 23 年 3 月 15 日
日本大学芸術学部 〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1 電 話 03(5995)8208 研究事務局

研 究 成 果 報 告 書



8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部



主催等

主催

日本大学芸術学部

後援

文部科学省

独立行政法人科学技術振興機構

毎日新聞社

毎日小学生新聞

長崎大学大学院 移植・消化器外科

特別協賛企業

全日本空輸株式会社 **ANA**

応募資格

全国の小学生（国籍は問わない）

応募部門

①「健康と医療の未来」部門

②「宇宙開発の未来」部門

③「自然・環境・エネルギーの未来」部門

④「ロボットの未来」部門

応募形態

400字以内の作文

またはB3サイズの絵

審査委員

【学部審査委員】

芸術学部審査委員会 12名

ドリームキッズ実行委員会

【外部審査委員】

養老 孟司（東京大学名誉教授・芸術学部客員教授）

青木 義男（日本大学理工学部教授）

渡辺 政隆（サイエンスライター・芸術学部客員教授）

松井 龍哉（ロボットデザイナー）

【名誉審査委員】

兼松 隆之（長崎大学大学院移植・消化器外科教授）

賞

最優秀賞 1名

副賞：親子でANA 空の旅／宿泊券／図書券1万円

優秀賞 2名

副賞：親子でANA 空の旅／宿泊券／図書券5千円

入 選 5名

副賞：図書券5千円

※入賞者全員に「日藝未来博士号」を授与

研究代表者

木村 政司 教授

研究分担者

相川 宏 教授

上田 薫 教授

上倉 泉 准教授

川上 央 准教授

桑原 淳司 教授

齊藤 裕人 教授

鈴木 康弘 教授

高橋 幸次 教授

谷村 順一 助教

細谷 誠 専任講師

松島 哲也 教授

研究実施プロデューサー

加藤 牧菜
（オフィスマキナ代表取締役）

広報スーパーバイザー

元村 有希子
（毎日新聞社科学環境部）

ドリームキッズ実行委員会

芸術総合講座
「サイエンスコミュニケーション」
2010年度受講学生有志



ドリームキッズ実行委員会リーダー会議 4月

賞

最優秀賞 1名

副賞：親子でANA 空の旅／宿泊券／図書券1万円

優秀賞 2名

副賞：親子でANA 空の旅／宿泊券／図書券5千円

入 選 5名

副賞：図書券5千円

※入賞者全員に「日藝未来博士号」を授与

4月 コンクール募集要項配布開始
学生メンバーを中心とした実行委員会
（ドリームキッズ実行委員会）キックオフ



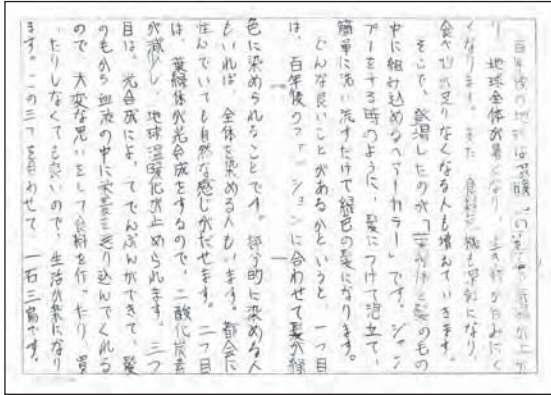
募集要項表面 イラスト：斉藤 成美



芸術学部ホームページトップ



6月 30日 応募締切
応募実績
作文 523 点
絵 画 282 点
総応募数 805 通



一石三鳥葉緑体 廣瀬 久実 さん



最終審査会広報ポスター デザイン：斉藤 成美

7月 学内・学外での1次審査



ぼくのごみへらし計画 東 慧紀 さん

最 優 秀 賞 ぼくのごみへらし計画 東 慧紀 さん 立命館小学校 3 年生
優 秀 賞 えき体うちゅう服 西山 能生 さん 西条市立西条小学校 4 年生
優 勝 賞 一石三鳥葉緑体 廣瀬 久実 さん 甲州市立塩山南小学校 5 年生
入 賞 未来のお弁当箱 大村 拓司 さん 八尾市立西山本小学校 6 年生
入 賞 ヘその緒 宇野 広大 さん 直方市立福地小学校 5 年生
入 賞 身近なエネルギー発電機 竹田 佳瑠 さん 横浜市立秋葉小学校 6 年生
入 賞 ヘチマが地球を救う!? 松岡 航 さん 神戸大学付属明石小学校 6 年生
入 賞 食べものロボット 中村 直登 さん 横浜市立東台小学校 2 年生
学 部 長 賞 ヘチマが地球を救う!? 松岡 航 さん 神戸大学付属明石小学校 6 年生
学生特別賞 ゲームの中 杉本 恒平 さん 八尾市立西山本小学校 6 年生
学生特別賞 さらば長くつサッカー 志賀 智寛 さん 日野市日野第五小学校 5 年生
学生特別賞 ふしん者げきたいロボット ミナモト 賢 さん 世田谷区等々力小学校 5 年生
（クッドロボットアイデア賞）

※学部長賞は、野田慶人芸術学部長が特別に選んだ作品で、
副賞としてホームスター・プロ（ホームプラネタリウム）が贈られた。
※学生特別賞は、実行委員の学生メンバーが投票で選んだ作品のうち、
おもしろも入賞の8作品に入らなかったものに贈られた。



8月 2日 入賞 8 作品決定
ホームページ等で発表



オリジナルウェブサイト 制作&イラスト：斉藤 成美



科学技術振興機構 サイエンスニュース

8月

最終審査会
入賞者の口頭プレゼンテーション審査
最優秀賞・優秀賞決定
日時：8月28日（日）14:00 -15:00
会場：日本大学芸術学部
江古田校舎ギャラリー棟

全国から集まった入賞者8人の最終審査が行われた。ガラス張りのギャラリー棟には「パリ・コレ」のキャットウォークをイメージして舞台が作られ、入賞者が、一人2分間の口頭プレゼンテーションを行った。
模造紙に描いた図を示したり、紙で作った模型を見せるなど、それぞれに工夫が凝らされていた。入賞者の家族や友人たちも参加し、会場は満員になり熱気にあふれた。学内審査委員・外部審査委員による審査により、最優秀賞、優秀賞等が決定し、表彰式を行った。審査会の後にはA&Dギャラリーでお茶会が催され、入賞者の小学生と審査委員の先生方が歓談する場面も見られた。

9月

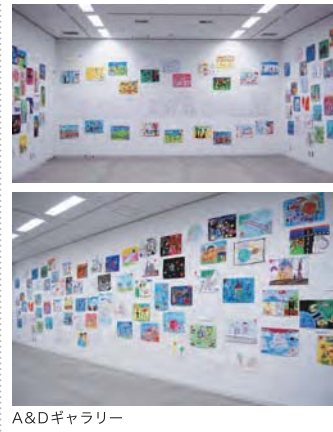
作品展
2010年9月21日（火）～27日（月）
日本大学芸術学部江古田キャンパス
A&Dギャラリー
コンクールに寄せられた絵画作品と受賞者の作文を展示した。東京国際科学フェスティバル2010の公認イベントとして開催した。

受賞作品のアニメーション化開始

芸術学部デザイン学科の2年生が中心となって、入賞作品のアニメーション化を行った。まず、学生が入賞した作文を読んでアニメ化してみたい作品を選び、手書き・クレイアニメ・CGなどそれぞれの方法で制作を開始した。
「アニメ制作はまったく初めて」という学生がほとんどであったが、他学科の学生とのコラボレーションを行ったり、各チームとも工夫を凝らして作品を作りを上げた。いずれも、小学生のアイデアをより大きく膨らませ、あたたかく、希望のあるコンセプトを持った作品となった。

アニメ制作チーム

- ① ぼくのごみへらし計画
市毛 雪絵
- ② ぼくのごみへらし計画
山本 佑美
- ③ 一石三鳥、葉緑体
鈴木 愛里、山口 彩（放送学科4年）
- ④ えき体うちゅう服
飯島 歩
- ⑤ えき体うちゅう服
菊川 薫、早川 麗
- ⑥ えき体うちゅう服
一條 薫子、斉藤 優姫、渡辺 佳美
- ⑦ 未来のお弁当箱
杉野 亜美
- ⑧ ヘその緒
生沼 祐亮
- ⑨ 身近なエネルギー発電機
鈴木 麻紗子
- ⑩ ヘチマが地球を救う!?
今 なつき
- ⑪ 食べ物ロボット
倉地 賢也、腰越 恵麻、小林 由里絵、高橋 明末、山本 彩夏
- ⑫ 食べ物ロボット
輪島 大也



A&Dギャラリー

11月

サイエンスアゴラ2010内で
アニメーション上映会開催
11月21日（日）10:30-12:00
日本科学未来館 会議室 2



Science Agora

12月 アニメーションを
YouTubeで公開
DVD制作



えき体うちゅう服



一石三鳥葉緑体



食べものロボット



サイエンスアゴラ2010 アニメーション上映会



青木義男教授からアニメーションの講評

優秀賞の廣瀬久実さんは、
副賞のANA旅行券でご家族と長崎へ。本コンクールの生みの親である長崎大学の兼松隆之先生のもとを訪れた。科学への夢がつかない素敵な出逢い。世代を超えて、一緒に未来を語り合った。



兼松隆之先生と
廣瀬久実さん（長崎にて）